

第5回ウィズあかし運営委員会
「市民みんなでつくるウィズあかしを考える会議」議事録

令和4年1月21日（金）18：00～20：05
複合型交流拠点ウィズあかし 8階フリースペース

参加者：運営委員 10 名 明石コミュニティ創造協会スタッフ 16 名 市職員 1 名

1. あいさつ（事務局）

今回で運営委員会の実施が5回目となり、本日は前回から取り組んでいる難しい評価というテーマで職員も頭を悩ませながら取り組んでいるところであるが、運営委員の皆様と意見交換することで私たちも大変勉強になるので、よろしくお願ひしたい。

2. 振り返り

事務局より、ウィズあかしが取り組んでいるや12月に実施したウィズフェスの報告、第3回、第4回の運営委員会の振り返りなどの説明を行った。

3. 意見交換①

事務局より「〇〇のどんな変化をキャッチしたい」について、各チームで意見交換を行った後、ワールドカフェ方式で意見交換及び情報共有を行った。
(別紙まとめなどを参照)

4. 意見交換②

事務局より「その変化をどんな人にどう伝えたい」について、各チームで意見交換を行った。
(別紙まとめなどを参照)

5. まとめ

(職員)

変化をどんな人にどう伝えたいか、変化をどう可視化するかを考えていきたいと思っていたところだが、なかなか難しいテーマでした。各テーブルで出た意見をまとめたものを前のホワイトボードに記載している。本来であれば情報共有するために発表していくわけですが、ワールドカフェという手法で進めたので、各テーブルでどのような議論をしていたのかは、みなさん確認はできているのかと思っています。

少し紹介していくと、このテーブルは、行政やウィズあかしを利用する人にウィズあかしで起きていることを可視化することが必要であり、可視化をするのが課題である。具体的にどのような人にといいことで、調整したい人や必要としている人、ウィズあかしを知

らない人に伝えたい。どう伝えるのかというと、新しいことを始めたいという雑誌などで伝える、この場所がどういったところでどんな変化をしているのかを伝えることが大事である。

Aのテーブルは、ウィズあかしの利用者したことがない人や施設の利用にきっかけづくりできる仕組みが大事であるという議論でした。

Dのテーブルでは各家庭に一冊ずつパンフレットを配る。市民や他市も含めて、ウィズあかし利用者のサクセスストーリーとして体験談や生の声をしっかり伝えることが、ウィズあかしの存在価値を高めるという話でした。

Bのテーブルでは、ウィズあかしの存在自体をしっかりと市民に伝えることが大事である。

あるテーブルでは、稼働率や施設の利用率といった数値を気にするが、ウィズあかしがあることを伝えないといけないし、市民は稼働率や施設の利用率が高いことに対して興味がなく、市民の方々にどう伝えるかのかが課題である。ウィズあかしは場所のことではなくて、活動していることがウィズあかしであるという意見がありました。

Eのテーブルでは、ウィズあかしの存在意義をしっかりと伝えることが大事である。そのためにウィズあかしで起きていることの可視化をできることが大事であるという意見がありました。伝え方として変化が起こった人からの口コミで広がっていくことが、ウィズあかしの評価につながっていくという意見がありました。

講評として、識者のお立場から2人の委員にご意見をいただきたいと思う。

(委員)

評価の話について関心があり、川西市で事業しながら、月次や年次の報告が本当に評価できているのかずっと疑問に感じていた。

そもそも、なぜ評価が必要となるのかという話だが、公共施設を維持運営するには多額の公金が使われているが、十分に活用されているのか。そういった中、行政としては、利用者にとれぐらい活用されているのかを知るために、利用率・稼働率という様な報告書となっている。

しかし、その施設を利用する利用者や運営する立場からは、事業の評価としてその数字が正しく表れているものなのか疑問に残るところである。

そうすると、変化を推し量るその対象に対してどうであったのかの部分が見える化しないといけない。例えば、新たな活動を行う中でどういう変化があったのか、ウィズあかしは変化を起こす職場であり、そこで働く職員が業務を行う中でどう変化をしていったのかも測れると思う。

ウィズあかしの存在意義を示すものとして、相談業務がそのひとつで、雑談や立ち話を含めた相談は本音を聞ける大事なことであり、コンシェルジュとしてそういった相談にも対応し見える化できればと思う。明石市の広報あかしを拝見する中で、相談先にウィズあかしが書かれていないことには驚いた。ウィズあかしが相談ごとではないが、不安に思っている市民に対して相談対応する、そのことを積み重ねていくことができれば、

相談を受けつがなった人は大きなストーリーとなっていく。評価の話もそうだが、みなさんと一緒に考え積み上げ考えていければと思う。

(職員)

今の講評を聞き、小さな変化を積み上げていくことがキーワードであり、どう変化をキャッチするのかは事例を積み上げていくしかないと感じました。

(委員)

今日は本当に勉強となり、レベルが高くて、いい意見ばかりだったと思います。

これだけレベルが高いので、もう少しアドバイスすると、最近本屋で「測りすぎ」という本を見つけたので紹介すると、その内容は世の中いろんなことを図りすぎていて、例えば KPI などの数値で測るがそんな社会に未来はないというものでした。今日の議論は無駄ではないが、測れないものこそ本当に価値があるという本質を今日の議論で感じました。何のために測っているのかを見失うことがなれば、そのことに価値はあるけど、目的を測ることを目的化してしまうと本末転倒の話になってしまう。

もうひとつレベルアップできるきっかけとしては、個人の小さな積み重ねは大事だと思うが、個人の気持ちの変化をあらかじめ押し付けることは傲慢ではないのか。もう少し大きい社会の変化や明石の変化ぐらいのことで変化を測る時の構え方としてあるのかなと思っている。

答えになるかわからないがスタッフの糸口として、見える化は大事であると思っていて、今日の話はどうやったら人に伝えることができるのだろうという話だと思う。

ひとつは都市計画のまちづくりの分野では、ビジビリティと呼んでいて、それはビジュアルにすることができる能力であり、3つの要素として、ストラクチャーとアイデンティティとミーニングがある。

今日の話をもとに構造化するストラクチャー、個性を的確に掴むアイデンティティ、意味というミーニングで整理することができるのかなと思う。

もうひとつは、ナラティブで物語や語りという意味であり、結局ここで話を聞くことに価値がある。人に伝える時に語り部でしか伝えられないものがあるという類のものである。それはキーワードや数値に置き換えた時になくなってしまうもので、そのまま伝えるしかない。例えば、堺市のニュータウンで市民の方々を紹介する家ミットというクラウドファンディングでしか買えない雑誌がある。その人の雰囲気や変化がわかり、まとまって一冊の本になることで集団の変化として伝わるいい雑誌であり、あのやり方はヒントになると思う。

今日の話について、ビジビリティを高めて人に伝えることができれば、いい事例として紹介できるので、次回以降も楽しみにしている。

(職員)

今日は難しいテーマにも関わらず、ありがとうございました。

変化を求めているのはウィズあかしを運営する立場の話であり、そこからウィズあかしの存在意義をどう考えることから、稼働率や利用人数を測りたいのは行政であり、稼働率が高くなったら市民は利用できなくなるという話がありました。市民は、稼働率や利用人数といった数値について利用者は求めていなくて、そういう意味では本日の変化は難しいテーマである。でも、そういったところからウィズあかしの存在価値を見える化するチャレンジをしていかないといけない。日頃は、月次や四半期などの報告を提出するが、報告内容についても工夫するところはあるのではないかと思います。

小さい変化から明石市内にどう波及していったのかを意識しないといけないし、今日はいきっかけをいただいた。難しい課題で答えは出ていないが、頂いた意見を基に具体的に反映したところを来年度に向けて取り組んでいきたい。

来年度引き続きお願いする委員の皆様に変化したことを報告できるよう取り組んでいくので、引き続きよろしく願いいたします。本当に本日はありがとうございました。

(事務局)

では、第5回ウィズあかし運営委員会を終了する。

以上